

Nov. 3, 1995 西表島：仲間川林道

二度目の西表島は大原港から入って仲間川林道を探索する。港から5分ほど歩いた道路沿いに自転車レンタルが可能な土産物店があり余計な荷物を預けて仲間川林道への分岐点大原に向かう。この角にある雑貨店で昼の弁当とお茶を仕込んで準備はOK。林道と一般道路との区別がつきにくい所で、ちょうどガザミを洗っている老人をみつけて道をきくと「道路沿いに立つ電柱を目印にどんどん先に進めばいい」と分りやすくて的確だと思える指示をしてくれる。分岐点では老人のアドバイスどおり仲間川から遠ざかる方向にやや登りの勾配で伸びている道へと進む。ここから先の林道はレンタサイクル店のご主人が真顔で注意してくれたとおり、下手なハンドル操作をするとタイヤがさけても不思議ではないほどに角の鋭い石が多いガンガラ道である。三叉路のつきあたりにシロノセンダングサが咲いておりその花上でイワカワシジミをたて続けに2頭しとめる。翅裏全面のうす緑色はまわりの叢の色に合わせた保護色となっていて、じっとしていれば簡単には見つけにくく、さすがに自然界の妙と讃えるべきだろうが、花から花へと移動する、その動きでベテランの蝶屋には見つかってしまう。みごとなまでに枯葉とそっくりの模様を授かりながら、樹液に飛来したときでも翅表のブルーやオレンジの派手な配色をこれ見よがしに陽光にさらしてしまうものだから、せっかくの擬態が少しも活かされないコノハチョウにくらべれば、イワカワシジミの方がまだ授かりものをまじめに活用していると言えるだろう。



Nov. 3, 1995
西表島仲間川林道
イワカワシジミ♂
leg. M. Shimazaki

Sep. 20, 1997 西表島：仲間川林道

仲間川林道は大富林道との呼び名もあり、この紀行文ではあるていど山の中に入った場所については、仲間川からかなり遠ざかる位置となるので大富林道と記すことにする。今回の目的はヤエヤマイチモンジ♂。午前9時ではまだ陽射しがゆるく、蝶影がうすい。タテハモドキがひらひらと現われて日向ぼっこをはじめるのでとりあえずVideo撮影。2年前マサキウラナミジャノメが見られた坂道にもまだ陽光が届かなく、この林道入口では必ず見かけるベニモンアゲハもまだ現われない。2年前にイワカワシジミが吸蜜していた突き当たりのコーナーは今回センダングサの花がほとんどなく、カーブ右林縁でスジグロカバマダラとリュウキュウアサギマダラがやっと遊び始めた程度で林道は静寂そのもの。